

国語科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語への 関心・意欲・態度	○どんな学習にも興味をもち、進んで取り組もうとする児童が多いです。	○おおむね意欲的に話したり聞いたり、書いたり、読んだりできます。	○表現することに自信のない児童がみられます。	○目標値を3ポイント上回っています。全体の前で発言することに抵抗のある児童がいます。	○目標値をやや上回っています。自分の考えを正確に文章にすることができる児童もいますが、苦手とする児童も多く見られます。	○目標値をやや上回っています。特に物語教材への関心が高いです。
話す・聞く能力	○話すときに声の小さな児童がいます。 ○友達の話聞いて質問をしたり、感想を言ったりすることができます。	○思いを表現することが苦手な児童がいます。 ○大事なことを落とさないようにしながら、話を聞くことができます。	○根拠をもとに理由や主張を言うことに意識的に取り組んでいます。 ○話すことには個人差があり、自分の考えをもてない児童や言えない児童が見られます。	○目標値を3ポイント上回っています。話の中心に気をつけて聞くことができますが、相手の話を受けて返すことに課題が見られます。	○目標値を多少上回っていますが、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き、メモをとることに課題があります。	○目標値を5ポイント上回っています。自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことが課題です。
書く能力	○習ったひらがなを使って、経験したことや思ったことなどを文にして綴ることができます。	○一部の児童を除いて、書く視点を提示すると、進んで書くことができます。 ○作文のきまりが定着していない面があります。	○「はじめ・なか・おわり」を意識して書こうとしています。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○目標値を多少上回っています。自分の意見とその理由を区別して書くことができます。	○目標値を6ポイント上回っています。二段落構成で文章を書くことができます。また、自分の意見とその理由を区別して書くことができます。	○目標値を7ポイント上回っています。資料と話し合いを正しく読み取り、適切に書き直す問題の正答率が低かったです。
読む能力	○本を読むのが好きな児童が多いです。 ○物語の学習では、想像を広げながら読むことができました。	○本を読むのが好きな児童が多いです。 ○正確に音読できる児童が多いです。 ○一部に言葉や文の意味を取り違えて読む児童がいます。	○文章に直接書かれている内容については、読み取ることができています。段落相互の関係に気を付けて読むことや人物の心情とその変化をとらえることについては課題です。	○目標値を多少上回っています。説明文の文章の要点を捉えながら読み取ることに課題があります。	○目標値を8ポイント上回っています。物語文の登場人物の気持ちや場面の様子を的確に読み取ることができます。	○目標値を5ポイント下回っています。説明文の文章構成を的確に捉えることに課題があります。
言語についての 知識・理解・技能	○長音・促音、助詞の「は」「へ」「を」などの使い方が身に付いていない児童が多いです。	○一部に正しく長音や促音・撥音、助詞が使えない児童がいます。 ○多くの児童が漢字の読み書きに意欲的で、定着度も高いのですが、一部に字形が乱れたり、覚えられなかったりする児童がいます。	○分からない語を積極的に辞書で引いています。 ○修飾・被修飾といった語と語の関係の理解に課題があります。 ○習った漢字を正しく日常的に使えるよう定着させることが課題です。	○目標値を多少下回っています。文の構成については理解していますが、国語辞典の使い方・ローマ字の読み書きに課題があります。	○目標値を7ポイント上回っています。連用修飾語や指示語についての理解に課題があります。	○目標値を4ポイント上回っています。連体修飾語や敬語の使い方についての理解が不十分です。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○声が小さい児童が多いです。 ○長音・促音、助詞の「は」「へ」「を」などの使い方が身に付いていない児童が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを話せる児童とそうでない児童の差があります。 ○一部に言葉や文の意味を取り違えて読む児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すことには個人差があり、自分の考えをもてない児童や言えない児童が見られます。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習った漢字を正しく日常的に使えるよう定着させることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝えたい事柄を正確に文章にすることができている児童もいますが、苦手とする児童も多く見られます。自分の考えをわかりやすく伝える力をつけることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文において、初め・中・終わりの3つのまとまりに分けること、挙げられている事例に気を付け筆者の考えを読み取ることに課題のある児童がいます。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○声の掲示板を使って、その時に応じた声の大きさが身に付くよう指導していきます。 ○日記を書かせて、文章の中で正しく使えるよう指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二人組で話す、グループで話す、学級全員の前で話すなど形態を工夫し、段階を踏んで指導していきます。 ○教材文に書かれている新出語句の意味を丁寧に確認したり、視点を決めて線を引いたりして、正しく意味が理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いた文章を推敲したり、みんなで読み合ったりするなど、考えを共有する機会を多くします。 ○「楽しい」「嬉しい」という言葉だけで気持ちを表すのではなく、感情表現の仕方を指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートをとったり、作文などで文章を書いたりした際に習った漢字を使っているか、間違いがないかなどを読み直す習慣をつけ、正しく使えるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短い文章から書かせ、だんだんと文章を長く書く機会を多くもたせます。伝えたいことをわかりやすく、効果的に伝えられるよう指導していきます。 ○自他の文章を紹介し合い、よい表現などを学び合わせます。 ○様々な文集（報告書・説明文など）を書く機会を設け、丁寧に指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3つのまとまりにどのようにして分けたらよいか、再度指導します。 ○説明文の指導の際に、筆者の主張がどこに、どのように書かれているのか確かめます。 ○筆者の主張と事例の関係を確かめたり、筆者の考えに対する自分の考えを、具体例を挙げて説明したりする学習を取り入れます。

社会科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3年	4年	5年	6年
社会的事象への 関心・意欲・態度	○グループでの調査や発表を積極的に行うことができています。 ○調べ学習や校外学習後の新聞作りなどに積極的に取り組んでいます。	○現地に行って調査をしたり、見学したりすることで意欲的に取り組んでいる様子が見られますが、目標値は下回っています。	○意欲をもって学習に取り組んでおり、目標値をやや上回っています。	○目標値をやや下回っていますが、授業中は意欲をもって学習に取り組んでいる様子が見られます。
社会的な 思考・判断・表現	○複数の資料を比較し、関連付けることが苦手な児童がいます。 ○見学・探検等で調べたことを絵や図を使ってまとめることができます。	○目標値をやや下回っています。店ではたらく人について、仕事や工夫についての考察する問題の正答率が低かったです。	○目標値をやや上回っていますが、安全なくらしについて、消防の施設や設備の設置状況について考察する問題の正答率が低かったです。	○目標値をやや上回っています。選択問題は比較的よくできていましたが、資料をもとに記述する問題の正答率が低かったです。
観察・資料活用 の技能	○資料の正確な読み取りの力をつけることができていない児童がいます。	○目標値をやや下回っています。学校のまわりの様子について、地図記号と方位を関連付けて読み取ることが難しい児童が見られます。	○目標値を上回っています。特に、ごみのしよりと利用について、資料を読み取る問題の正答率が高かったです。	○目標値と同程度です。国土の自然などの様子についての問題はできていましたが、雨温図や米つくりの様子についての問題の正答率が低かったです。
社会的事象 についての知識	○大田区の様子や特徴などの知識が定着できていない児童がいます。	○目標値を下回っています。学校のまわりの様子について、地図記号の読み取りの正答率が低かったです。	○目標値をやや上回っています。どの単元においても一定の知識を獲得している状態です。	○目標値をやや下回っています。特に、工業生産についての理解がやや不十分です。

2 課題と改善策、検証方法

	3年	4年	5年	6年
課題	○大田区の様子や特徴などの知識が定着していない児童がいます。	○調べたことについて考察することに課題のある児童がいます。	○課題に対して目的意識をもち、自分の考えを記述したり、発表したりする力をつける必要があります。	○知識の定着について、課題のある児童がいます。
改善策	○授業の導入や展開の中で、大田区の地図を活用する機会を多く与えることで、地図に触れる時間を増やします。	○見学する前にこれまで学んだことを振り返り、見学の際には「何を調べてくるのか」見学の視点を明確にさせます。	○新聞やグラフなどの資料を活用し、新聞などにまとめを書かせ、自分の考えを記述する力をつけます。	○授業中に得た知識を活用する場面を意図的に作ります。単元の終わりに、獲得した知識を用いて、新聞やリーフレットを作る等の活動を取り入れます。

算数科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
算数への 関心・意欲・態度	○ 計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多くみられます。	○ 計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多くみられます。 ○ 問題をよく読まないで、立式してしまう児童が見られます。	○ 計算や測定などに意欲的に取り組める児童が多くみられます。	○ 目標値をやや上回っています。	○ 目標値をやや上回っています。 ○ 文章題に苦手意識をもっている児童がいます。	○ 目標値をやや上回っています。
数学的な 思考・表現	○ たし算やひき算の問題作りが上手にできました。 ○ 文章の問題をよく読まないで、数と数の関係を考えられない児童がいます。	○ 新しい課題に対して、既習の考えを用い、式や図などを使って解決することができる児童とそうでない児童の差がある。	○ 自分の考えを論理的に説明することができない児童がいます。	○ 目標値を上回っています。 ○ 0を含む除法の問題では目標値をやや下回っています。	○ 目標値をやや上回っています。 ○ 量と測定、数量関係領域において、目標値を下回る問題がいます。	○ 目標値をやや上回っています。 ○ 百分率が関係する問題では目標値を下回ります。 ○ 文章題の内容を的確に捉え、正しく立式することに課題のある児童が多いです。
数量や図形 についての処理	○ たし算やひき算をするときに、指を使って数の増減を確認しながら計算している児童がいます。	○ ものさし・定規の使い方がしっかり身に付いていないため、長さを正確に測れなかったり、真っ直ぐに線を引けなかったりする児童がいます。 ○ たし算やひき算のひっ算の計算方法はほぼ定着しています。	○ 計算の仕方は理解できていますが、簡単な間違いをすることもあります。	○ どの領域においても、目標値を上回っています。	○ どの領域においても、目標値を上回っています。	○ 目標値をやや上回っています。 ○ 小数のわり算の計算においては目標値を下回っています。
数量や図形 についての 知識・理解	○ たし算やひき算の意味や計算の仕方をよく理解して、生活の中で使っている児童が多くいます。 ○ 時計の読み方の理解が不十分です。	○ 数の相対的な大きさについて理解が不十分な児童がいます。 ○ 長さやかさ、時間などの単位の関係が理解できていない児童がいます。 ○ 繰り下がりの意味が理解できていないで、繰り下がる必要がないのに繰り下げてしまう児童がいます。	○ 「かさ」「時間」「長さ」などの量感がきちんと身につけておらず、日常生活に生かすまでには至らない児童がいます。 ○ 計算の順序の理解が不十分な児童がいます。	○ 目標値を大幅に上回っています。 ○ 重さを推察する問題では目標値を下回っています。	○ 目標値を上回っています。 ○ 数と計算領域において、目標値を下回る問題があります。	○ 目標値をやや上回っています。 ○ 台形の面積の公式を理解できていない児童がいます。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の問題をよく読まないで、数と数の関係を考えられない児童がいます。 ○たし算やひき算をするときに、指を使って数の増減を確認しながら計算している児童がいます。 ○時計の読み方の理解が不十分です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい課題に対して、既習の考えを用い、式や図などを使って解決することができる児童とそうでない児童の差があります。 ○長さやかさ、時間などの単位の関係が理解できていない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の仕方は理解できていますが、簡単な間違いをすることもあります。 ○「かさ」「時間」「長さ」などの量感がきちんと身についておらず、日常生活に生かすまでには至らない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四角形、三角形、円といった図形の弁別や定義の理解を深めることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○量の測定の領域において、数学的思考方に課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数の計算を正しく行うことに課題がある児童がいます。 ○面積の公式等理解が不十分な領域があります。 ○文章題の内容を的確に捉え、正しく立式することに課題のある児童が多い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の力をつけます。問題の中でわかっていること、聞かれていることを確認します。 ○いくつといくつの学習を思い出させながら、ブロックなどを使い、数の合成・分解の理解が深まるようにしていきます。 ○学校生活の中で、何時・何時半かを尋ね定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の最初に取り組む問題では、一人ひとりが十分に考える時間を設定し、対話や話し合う場を設定します。 ○日常の生活の中で、長さやかさ、時間などの読み取りや単位の変換を繰り返していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノート指導や確認プリントを行った際、個別に指導していきます。 ○算数以外の時間にもかさ「時間」「長さ」を意識的に取り上げ、日常生活の中に取り入れることで理解を深めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形を見た目の直感だけに頼らず、角度や辺の長さに着目して測ったり、折って合わせたりと実際に確かめていく活動を取り入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見当をたてて考える活動を多く取り入れ、感覚を身に付けるようにさせていきます。また、ノートに自分の考え方を書くように指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックテストの取り組みや補習教室、家庭学習等を活用して、正しく計算したり、公式を理解したりできるようにします。 ○数直線や関係図等に表すことで、文章題の内容を的確に捉えられるようにします。

理科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3年	4年	5年	6年
自然事象への 関心・意欲・態度	○実験や観察など体験的に学習するものについては意欲的に取り組むが、結果をまとめる段階で意欲をもち続けることが難しいです。	○目標値をやや下回っています。特に昆虫の育ち方における選択問題が下回っていました。 ○物質・エネルギー領域の「物の重さ」や「磁石の性質」については正答率が目標値より高いです。	○目標値をやや下回っています。物質・エネルギー領域の「水のすがた」は正答率が下がりました。 ○生命・地球領域の「一年間の植物の成長」と「天気の様子と気温」については、理解できているようでした。	○目標値をやや上回っています。生命・地球領域の「天気の変化」と「植物の発芽と成長」は、正答率が上がりました。 ○「魚の誕生」については、目標値を下回り、理解が不十分でした。
科学的な 思考・表現	○実験や観察の結果から、似ていることや異なっていることを発見することはできますが、知識・理解に結び付けて自分の考えを言うことが難しいです。	○目標値をやや下回っています。風やゴムの働きや磁石の性質についての理解が不十分です。 ○昆虫のからだのつくりについては正答率が目標値より高いです。	○目標値をやや上回っています。生命・地球領域の「一年間の植物の成長」、物質・エネルギー領域の「電気のはたらき」は、正答率が上がりました。 ○「物の温まり方」は、目標値を下回っています。	○目標値をやや上回っています。生命・地球領域の「植物の発芽と成長」については、正答率が横ばいだが、物質・エネルギー領域の「物の溶け方」は、正答率が上がりました。
観察・実験の 技能	○観察において細かいところまで見て、特徴や形を描写することができない児童が多いです。	○目標値を下回っています。気温の測り方や太陽と地面の様子についての理解が不十分です。 ○観察や飼育の仕方、器具の使い方については、よくできていました。	○目標値を下回っています。生命・地球領域の「天気の様子と気温」は、正答率が下がり、目標値に達していません。 ○物質・エネルギー領域の「電気のはたらき」については、横ばいでした。	○目標値を上回っています。生命・地球領域の「植物の花のつくりと実」、「けんぴ鏡の使い方」とも正答率が上がり、目標値を上回りました。 ○生命・地球領域の「植物の発芽と成長」については、横ばいでした。
自然事象 についての知識	○実験や観察をしたことについての知識・理解が十分で定着している児童がやや多いです。	○目標値を下回っています。特に、生命・地球領域の「太陽と地面の様子」は、理解が不十分でした。 ○物質・エネルギー領域の「電気の通り道」はよくできていました。	○目標値をやや上回っています。生命・地球領域の「一年間の植物の成長」は正答率・目標値とも向上しました。 ○「一年間の動物の様子」については、理解が不十分です。	○目標値をやや上回っています。生命・地球領域の「魚の誕生」は正答率が上がり、目標値を上回っています。 ○「流れる水のはたらき」の正答率は上がったが、目標値を下回っています。

2 課題と改善策、検証方法

	3年	4年	5年	6年
課題	○意欲的に観察・実験を行っていますが、自然現象の相違点や共通点をしっかりと捉えさせて、知識・理解の定着を図る必要がある。	○実験や観察は楽しく意欲的にできますが、それが知識として定着していない場合があります。 ○感覚的な言葉や、理科用語が示す状態の理解が浅く、定着率はよくありません。	○観察単元の分析結果から植物の成長については理解できていますが、動物と天気の様子が、知識として定着していません。一年間の変化を見通しをもちながら観察する意識をもたせることが課題です。	○実験・観察はグループで互いに教え合い協力してできますが、条件制御を行う場面では混乱してしまう児童がいます。 ○知識が定着している単元と、そうでない単元があります。
改善策	○隣接する平和の森公園を有効活用し、さらに関心・意欲・態度を育てていきます。 ○観察・実験では細かいところまでよく見るように繰り返し声をかけます。	○何を調べるための実験なのか、課題をしっかり捉えられるようにします。計画・実験・考察・まとめと学習の流れを児童が理解できるようにします。	○動物の一生を季節ごと追えるように、1年のはじめに見通しをもった指導計画を立て、観察や飼育を行っていきます。 ○実際に観察しにくいもの、全員が確認できないものについては、視聴覚教材や資料を適宜使用し、共通の知識にします。	○条件制御の実験の場面では教師が実験の手順を視覚的に提示したり、全体でどの条件を変えるのか確認したりする工夫をしていきます。 ○学んだ知識（語句）を使って授業のまとめを自分なりに書かせます。

生活科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

1年	2年
<p>○アサガオを愛情をもって育てる児童が多かったです。途中で水やりを忘れてしまう児童もいました。</p> <p>○観察カードに、活動の中で気づいたことを得や言葉で表現できています。気づいたことをたくさん書けるようになってきました。</p> <p>○どんな活動にも興味をもって、意欲的に取り組んでいます。</p> <p>○2年生に優しく教えてもらって、学校を探検したり、ピザを作ったりすることができました。教える側になる活動を入れたいです。</p>	<p>○身近にある物や生き物、昔からある遊びなどに目を向けて関わろうとしている様子が見られます。</p> <p>○身の回りの自然への興味関心が高い児童と低い児童の差があります。</p> <p>○自分が見たり聞いたりしたことを先生や友達、家の人に伝えることができます。</p> <p>○気づいたことや楽しかったことを話したりカードにまとめたりすることができる児童が多いのですが、一部に苦手な児童もいます。</p> <p>○友だちと一緒に遊んだり行動したりすることが好きです。遊びを通して、友だちのよさに気付ける児童が多くいます。</p> <p>○地域との関わりをもたせることが課題です。</p>

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年
課題	<p>○児童自身の思いを活動にするのが課題です。</p> <p>○教える側になる活動をするのが課題です。</p>	<p>○身の回りの自然への興味関心が高い児童と低い児童の差があります。</p> <p>○地域との関わりをもたせることが課題です。</p>
改善策	<p>○2学期には、シャボン玉作りやどんぐりで遊ぶ授業を計画し、その中で児童一人一人の思いを実現していくようにしていきます。</p> <p>○3学期には、保育園児との交流を取り入れた活動を企画します。その中で2年生が行っていた発表するときの立派な態度や優しい言葉かけなどが見られるようにしていきます。</p>	<p>○子どもたちが十分に意欲をもって活動できるようゆったりと時間をとり、関心をさらに広げられるようにしていきます。</p> <p>○探検に行くときや季節遊びをするときには、見る視点を定めるようにします。</p> <p>○自然の中での体験をさらに増やし、遊び方や楽しみ方の工夫について話し合い活動をさせたり、他者に五感を通して分かってもらえるように言葉や絵、体での表現を工夫させたりしていきます。</p> <p>○同学年による活動だけでなく、異学年との交流を増やし、共に活動する楽しさが分かるような体験をさせて友だちのよさに気づけるようにしていきます。</p> <p>○児童同士の交流を増やし、お互いにいいと思ったところを発表し合い認め合う活動をします。</p> <p>○平和の森公園や地域の施設を使った活動を充実させることで、地域との関わりをもつ機会をつくります。</p>

音楽科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
関心・意欲・態度	○意欲活動に取り組み、音楽活動を楽しんでいます。	○意欲活動に取り組み、音楽を楽しんでいるが、主体的に深められない児童もみられます。	○多様な楽曲にもこだわりなく積極的に楽しむことができます。 ○音符を読むことが定着できるよう継続的に学習する必要があります。	○多様な楽曲にもこだわりなく積極的に楽しむことができます。 ○楽典的内容が定着できるよう継続的に学習する必要があります。	○歌唱では、響きのある発声を意識して歌えます。 ○全体的に、皆で、合唱や合奏をする雰囲気を楽しめ、前向きに取り組めます。	○歌唱では、響きのある発声を意識して歌えます。 ○全体的に、合唱や合奏を楽しめますが、自分本位の活動になる児童もみられます。
表現の創意工夫	○元気に大きな声で歌えますが、音程がとれなかったり、強弱に気を付けて歌ったりすることが苦手な児童もいます。	○歌唱では、無理のない発声で歌うことができるが、音程の高低が感覚的につかめない児童もみられます。	○リコーダーの音色を意識したり、タンギングの仕方を工夫したりすることができます。	○リコーダーの音色を意識したり、スタッカート仕方を工夫したりすることができます。	○歌唱では、高音での響きのある発声を意識して歌うことができます。	○歌唱では、高音での響きのある発声を意識して歌うことができます。
表現の技能	○器楽では、鍵盤ハーモニカを正しい運指で演奏したり、拍を数えて打楽器を打ったりすることができます。	○器楽では、鍵盤ハーモニカを正しい運指で演奏することができます。	○リコーダーの運指の理解は、個人差があります。音色を意識して演奏できる児童もいます。	○リコーダーの運指の理解は、個人差があります。音色を意識して豊かに演奏できる児童もいます。	○器楽では、リコーダーの異本的な奏法は、身につけています。 ○歌唱では、低音の発声をきれいに出すことが課題です。	○器楽では、リコーダーの異本的な奏法は、身につけています。 ○歌唱では、低音の発声をきれいに出すことが課題です。
鑑賞の能力	○鑑賞では、リズムに合わせて体を動かし、曲を聴くことのできる児童が多いです。	○鑑賞では、曲を聴き、リズムに合わせて体を動かし、自分の思いを活発に発言する児童が多いです。	○鑑賞では、楽曲の構成に気を付けたり、曲想を味わいながら楽しく聴いています。	○鑑賞では、楽曲の構成に気を付けたり、楽器の音色を意識しながら、曲想を味わいながら楽しく聴いています。	○鑑賞では、楽曲の構成や変化に気を付けて聴いています。音楽的根拠をもって自分の考えを発言することは難しいです。	○鑑賞では、楽曲の構成や変化に気を付けて聴いています。音楽的根拠をもって自分の考えを発言することは、難しいです。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○元気に大きな声で歌えますが、音程がとれなかったり、強弱に気を付けて歌ったりすることが苦手な児童もいます。	○音楽を楽しんでいるが、主体的に深められない児童もみられます。 ○音程の高低が感覚的につかめない児童もみられます。	○音符を読むことが定着できるよう継続的に学習する必要があります。	○楽典的内容が定着できるよう継続的に学習する必要があります。	○歌唱では、低音の発声をきれいに出すことが課題です。 ○音楽的根拠をもって自分の考えを発言することは、難しいです。	○合唱や合奏を楽しめるが、自分本位の活動になる児童もみられます。 ○歌唱では、低音の発声をきれいに出すことが課題です。 ○音楽的根拠をもって自分の考えを発言することは、難しいです。
改善策	○いろいろな楽曲を歌ったり、階名唱したりしながら正しい音程をつかめるようにします。	○手遊びなどで、楽しめる活動をたくさん取り入れていきます。 ○いろいろな楽曲を歌ったり、階名唱したりしながら正しい音程をつかめるようにします。	○階名唱やリズム唱などを多取り入れ、音符カードや音階の表と結び付けて指導します。	○階名唱やリズム唱などを多取り入れ、音符カードや音階の表と結び付けて指導します。	○活動の導入部分に発声練習を取り入れ楽曲と連動しながら、ポイントが捉えやすくなるように指導します。 ○鑑賞のワークシートを活用します。	○二部合唱などを含めた楽曲に取り組み音を聴き合うことや響きを合わせる指導に重点を置いていきます。 ○鑑賞のワークシートを活用します。

図画工作科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
造形への 関心・意欲・態度	○意欲をもって取り組み、造形活動を楽しんでいます。	○毎週の授業を楽しみにしています。造形活動が大好きで意欲的に取り組んでいます。	○とても意欲的に取り組んでいます。新しい体験に目が輝いています。	○造形活動の体験を深めることに意欲的に取り組んでいます。	○自分らしさを見つめ、造形表現スタイルを意欲的に探求しています。	○造形活動を楽しみながら、意欲的に自分らしい造形表現スタイルを探求しています。
発想や構想の 能力	○自分らしさを作品に表現できています。	○自分の思いを表そうと、楽しく制作しています。	○感じたこと、想像したこと、見たことをもとに、自分の表したいことを見つけています。	○自分の思いを大切にしたい表現の仕方や発想に、多様な展開が見られます。	○形や色の構成の美しさや、用途などを考えながら、発想し、想像力を働かせています。	○材料や場所などの特徴を基に発想し、自分らしいアイデアをもとに取り組んでいます。
創造的な技能	○表現の仕方を考え、手を使ううえで、思うようにのりやハサミを使えない児童がいます。	○表現のし方を考え、手を使って材料や用具を使うことはできますが、思うとおりに使いこなすまでには至りません。	○表したいことに合わせて、形や色、材料や用具の特徴を活かして使ったり、表し方を考えたりしています。	○表したいことや、用途に合わせて、形や色、材料や用具の特徴を活かして使ったり、表し方を考えたりしています。	○前学年までの材料や用具などの経験や技能を活かそうとしています。	○素材や場所などに進んで関わり合い、材料や用具の特徴を活かして使い、表現に適した方法などを組み合わせようとしています。
鑑賞の能力	○作品を見合って、友達の作品のよいところを発表できます。	○作品や材料を友達と見て、話し合ったり、発表し合ったりしています。	○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取っています。	○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取っています。	○自他の作品、我が国の美術作品などを鑑賞して、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりしてよさや美しさを感じ取っています。	○自他の作品、美術・、工芸作品などを美術館で鑑賞し、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりしてよさや美しさを感じ取っています。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○作品を作るうえで、のりやハサミを上手に使えない児童がいます。	○感じたことを話したり、友人の話の聞いたりして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどを基に、自分のイメージをもつことができている児童が見られます。	○感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがあることに気付く必要があります。	○表現活動や鑑賞を通して、色や形などを基に、自分のイメージをもつことができている児童が見られます。	○動きや奥行きなどの造形的な特徴などをとらえることができている児童が見られます。	○表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を活かして使い、表現に適した方法などを組み合わせることができるようになる必要があります。
改善策	○のりやハサミを使う機会を多く設けその都度できない子には指導していきます。	○課題に即した作品鑑賞を通して、友人の作品が何に見えるかなど、形の見取りを発表し合わせ、イメージを言語化するなどして、表現の喜びをさらに深めていきます。	○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などの鑑賞を深め、形や色などを基にした自分のイメージをもてるようにします。	○感じたことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いがあることに気付くようにします。	○関連ある作品の鑑賞を通して、感じたことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、動きや奥行きなどの造形的な特徴に気付くようにします。	○材料などの特徴をさらに深くとらえ、主題の表し方を構想する力を育みます。 ○自分の感覚や表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉える力を育みます。

家庭科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	5年	6年
家庭生活への 関心・意欲・態度	○自分や家族の生活に関心をもち、皆が快適に過ごせるような環境作り、調理実習や裁縫などの実践的・体験的活動を積極的に行っています。	○自分や家族の生活に関心をもつことができます。 ○調理実習や裁縫、洗濯などの実践的・体験的活動を積極的に行っています。
生活を創意工夫 する能力	○家庭での仕事や手伝い、できる料理などの面で、生活に関わろうとする姿勢が見られます。	○住まいの快適な環境作り、季節にあった着衣、栄養のバランスを考えた食事など、習得した家庭生活についての知識や技能を活かして、生活を見直したり改善したりしています。
生活の技能	○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いにより個人差が多く見られます。	○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いにより個人差が見られます。
家庭生活についての 知識・理解	○家庭生活が、身近な人々との関わりで成り立っていることや、互いに協力し助け合っていく必要があることに気付き始めています。	○家庭生活に必要な知識を習得し、家族の為に自分にできることを考え、実践する姿が見られます。

2 課題と改善策、検証方法

	5年	6年
課題	○玉結び・玉止めなどの技能について、人差があります。 ○調理実習では技能に個人差があり、経験不足の児童が見られます。	○裁縫やミシンの使い方等の技能について、個人差が大きいです。
改善策	○家庭と連携を取り、家庭生活について自分なりに工夫し、活かせる場面をつくります。 ○夏休みに家庭で調理・手芸・清掃の実習を実施できるようにし、学習したことを確実に身に付けたり、できることを増やしたりします。家庭で経験したことをもとに、さらに授業の中で生かせるようにもしていきます。	○進みの早い児童や裁縫やミシンの使い方に慣れている児童が、進みの遅れている児童の作業を手伝ってあげるように声掛けをしていきます。 ○保護者にも呼び掛け、裁縫や調理実習等の授業の補助に入ってもらいます。 ○ミシンを使った学習活動の場面を設け、技能の定着を図ります。

体育科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
運動や健康、安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、体育の授業を楽しみにしています。 ○できないことにも果敢に挑戦する子が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、体育の授業に進んで取り組んでいます。 ○自分たちで整列して、学習を始める準備ができます。また、跳び箱やマットなどの道具を友達と協力して安全に片付けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に対する意欲は高く、楽しんで運動しています。 ○用具や器具の準備・片付けにおいて、児童が進んで取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、楽しんで運動しています。 ○グループの友達に励ましの声をかけたり、アドバイスをしたりして、仲よく運動しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多いです。 ○安全に気を付けながら跳び箱や高跳びの道具を準備し、協力して運動に取り組むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多いです。 ○安全に気を付けて運動に取り組むことができます。
運動や健康、安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しくゲームを行えています。 ○ゲームの中で、友達にアドバイスしたり、励ましたりしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しく運動して、ゲームや競走(争)に参加することができます。 ○グループの友達と話をしたり、遊び方を工夫したりして、運動に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りを生かして、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを視覚的にとらえることができるようにすることで、自分の課題にあった練習を選んで取り組むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームや個人で必要な練習を考えようとしたり、自分のチームの特徴をつかみ、適切な作戦を立てたりすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のコツやポイントを見付けたり、自分の課題に合った練習方法を選んだりして学習を進めることに課題のある児童がいます。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ○とぶ・走る・投げるなど、基本的な動きを身に付けて、運動を楽しんでいます。 ○鉄棒を使った運動遊びでは、腕の力が弱く、支持しての跳びあがりができない子、頭を下にするのを怖がる児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して、正確に体を動かすことができる児童が多いです。 ○体力テストの結果より、握力や上体起こしなどを中心に、多くの種目で区・都の平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動経験が不足している児童が多いです。 ○器械運動を苦手にしていく児童は多いですが、スモールステップで学んだり、教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、徐々に技が上達してきています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動を苦手意識の強い児童は多いですが、教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技が上達しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動や陸上運動では特に個人差が大きく、苦手とする児童が多く見られます。 ○ボール運動では、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を身に付けてゲームに取り組むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動や陸上運動では特に個人差が大きく、苦手とする児童が多く見られます。 ○体力テストの結果では、上体起こし以外の種目において、区・都の平均を下回っています。
健康、安全についての知識・理解			<ul style="list-style-type: none"> ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことができている児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の直後はよく理解し、意識して生活しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心はどのように発達するのか、怪我が起こったときは、どうすればよいのかを、多くの児童が理解しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○病気の起こり方や予防の方法について、多くの児童が理解しています。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○鉄棒を使った運動遊びでは、腕の力が弱く、支持しての跳びあがりができない子、頭を下にするのを怖がる児童がいます。	○きまりを守って、楽しく運動することができています。	○運動経験の不足している児童が多いです。	○器械運動を苦手にしていく児童が多くいます。	○ボール運動において個人的なボール操作の技術に差があり、技術ポイントをイメージすることができたり、理解して、問題解決を図ったりしていく必要があります。	○運動のコツやポイントを見付けること、自分の課題に合った練習方法を選ぶことが難しい児童がいる。 ○個人差が大きく、苦手とする児童が多い運動領域がある。
改善策	○腕の力が付くような運動を定期的に入れていきます。 ○何回も経験させて、頭を下にすることに慣れさせます。	○今後も楽しんで体を動かすことができるように、指導していきます。	○意図的に体育的な活動を多く取り入れていきます。	○スモールステップで学んだり、教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、徐々に技が上達してきています。運動感覚を養う補助運動を授業の始めに取り入れ、主運動につなげていきます。	○ポイントを視覚的に理解しやすいよう教材に工夫したり、スモールステップの段階を示していきます。 ○ゲームで適用される運動技能を実態に応じて優しく、戦術的行動に意識をむけるゆとりをもてるようにします。 ○コートの大さきやルールを工夫させ、能力レベルに合わせて楽しくゲームを行えるようにします。	○個々の能力に応じて、適切なめあてを設定できるように、基準となる目標や動き、技のポイント、スモールステップの段階を示していきます。 ○技能を高められるように、主運動につながる様々な運動を取り入れてウォーミングアップしたり、スモールステップで学べる運動の場を用意したりします。